

しか持っていません。これは局所気象までたぶんシミュレーションすることができますので、中部地方の中で危ないと思うところの気象とか津波などを、ものすごく細かいメッシュにして、シミュレーションをやるのです。そしてその時に先ほど言った逆演算というのを使って、仮にこれがあるとしたら、こういう条件になるからこれを計算してくれという、うそみたいにできます。日本は今世界中で、最もこういう科学技術の発達した国で、もうアメリカの比じゃない部分がたくさんあるのです。僕はいろいろなものの委員をやっているからそれが言えるのですが、嘘みたいに日本は豊かで世界中に貢献ができるような準備ができています。それを使いきれないのはとてももったいないです。こんな所に線の情報はいくらやっても、ここで見ているともこれが来るのがわかるわけがないですもの。だから、これを地域としてきちんとウォッチして、それでその対策をうつような事をやるのが一番正しい方向だというふうに僕は思います。何かで参考になるから、調べてごらんになるといいですね。



【竹村】 情報に関してよろしいですか。非常に参考になります。今ずっと議論されていたのは、失敗しても情報を隠すなという事なのですが、国土交通行政というのは、文明のインフラ部分下部構造ですから、ある意味で失敗しようがないのです。失敗したくてもできないのです。何故かという今自分たちが担当し

ているものは、すでに先輩たちが決めて来た事だからです。ずっと遡ると、江戸時代にほとんどの骨格が決まっています、その江戸時代の物を今守っているというか、それを何らかの形で僕たちは強化していつている。堤防が一番そうですね。骨格は全部江戸時代に決められています。ですから自分の人生軸で失敗しようとしても、失敗しないのです。だから、私、国土交通省の関係者に言いたいことは、インフラをやっている人間は先輩たちが100年、200年で引き継いできたシステムを今、みなさん方やっているのですが、そのシステムが出てきた誕生した時の情報を逆に出さないと駄目なのです。これは非情に難しいことなのです。新潟の田植えをしている写真です。これは昭和30年代、40年代ですが、ちょうど中越地震のあった新幹線が走っているその原点の写真を今から出します。これが田植えです。ですからJRの旧国鉄人はこの沼地を避けて、高台の方から行っているから、北から新潟に入っているのですね。ところが新幹線エンジニアはこの上を基礎を造って、乗り切る技術ができたので、ずっと突っ切って、新潟駅には南から入っているのです。ですから、在来線と新幹線は逆方向に新潟駅に入ります。これは新潟です。後ろに立っているおやじは、立っているようですがスキーを履いているのです。これもおばちゃんです。これが人間の原風景です。沖積平野は全部これなのです。沖積平野の僕たちが造っているものは全部これなのです。これは江戸です。150年前、江戸の日暮里にタンチョウヅルがいたのですね。150年前というとおじいさんのおやじくらいです。その時に東京のど真ん中の日暮里の所にタンチョウヅルが自生していたのです。タンチョウヅルは大湿地帯でないと生きていけませんので、つまり僕たちの文明はこういう大湿地帯の上にあるんだぞと。だから、名古屋であんなに簡単に2000年に水に浸かってしまったということを僕たちはもう見られなくなってしまっているのですね。見えなくなっている事をどうやって、国民に見せるかという努力をほとんどしていない。物を造ってしまって、先輩から物を引き継いで、それをしっかりやっつけていこうという姿勢は非常に誠実なのだけど、その元にある物は何だったのだろうかということをわかりやすく説明するというか、隠すどころじゃない、それを